

大田黒元雄（一八九三〜一九七九）をご存じだろうか。クラシック評論の草分け、西洋音楽の水先案内人などとは呼ぶ。旧大田黒邸は東京杉並区荻窪に広大な庭園として残されているので、散歩した方もいらっしやるかもしれない。

一九八一年に開園した大田黒公園の二七〇〇坪の敷地には、日本庭園やレンガ造りの洋館が当時のままに再現されている。これですら元の大田黒邸の三〇パーセントにすぎないという。

大田黒の父親は東芝を業界トップに育成したり、九州電力の創設にかかわったりした実業家である。大田黒が父から杉並区の敷地をプレゼントされたのは一九三三年、四〇歳の年である。普通ならとくに独立している年齢だが、彼は生涯を高等遊民として過ごした。

中学を卒業後、高校には進まず東京音楽学校の教師についてピアノを習った大田黒は、一九二二年から一四年までロンドンに留学し、音楽会やオペラに通いつめる。一時帰国していた間に第一次世界大戦が勃発。ロンドンで買収求めた楽書や楽譜をもとに『バッハよりシエーンベルヒ』という評論書を上梓する。このときシエーンベルクは四二歳、代表作『月に憑かれたピエロ』を発表してわず

プロフィール
ピアニスト・文筆家。大阪音楽大学教授。演奏と執筆を両立させる希有な存在。9月には「大田黒元雄と音楽と文学の仲間たち」を開催。主著に「翼のはえた指」（吉田秀和賞）、「6本指のゴルトベルク」（講談社エッセイ賞）など。



大田黒元雄のサロン

青柳いづみこ

か三年だから、大田黒の先物買いのほどがうかがわれる。

画期的なこの書が多く音楽青年をひきつけ、当時大森山王に住んでいた大田黒のもとに集結させることになる。一九二五年〜一六年にかけて大森のサロンで開かれた「ピアノの夕」の出席者には、のちの音楽評論家・野村光一、ラジオ番組「話の泉」の解説者・堀内敬三、作曲家・菅原明朗ら、楽壇の中枢を担うことになる人々とともに、同じく大森在住の詩人・堀口大学や渡仏前の版画家・長谷川潔の名も見える。

その長谷川潔の版画がプログラムの表紙を飾った「ピアノの夕」第一回（一九一五年二月一八日）では、野村光一がドビュッシーの『小さな羊飼』、堀内敬三が『ロマンス』を弾き語りし、大田黒が『牧神の午後への前奏曲』のピアノ・ソロ版を演奏している。この『牧神』も、大田黒がロンドン遊学中に演奏会で聴き、楽譜を入手したものだ。当時ドビュッシーは存命で、ヨーロッパの前衛作曲家だったのである。

リアルタイムで洋楽を導入し、自ら演奏し啓蒙につとめた大田黒の姿勢に敬意を評するとともに、「知らないものが沢山あった」時代の熱気をつくつくつらやましく思う。



- 1 エッセイ 千文字
大田黒元雄のサロン 青柳いづみこ
- 2 特集 考腹論——ハラを考える
ハラ凹ハラ凸 榎永 真佐夫
- 4 産後のハラは命の証し——バラオの出産儀礼 安井 真奈美
- 6 小さくなった服の逆襲 深井 晃子
- 6 太鼓腹のほとけたち 立川 武蔵
- 7 イスラム世界のハラ踊り——ベリーダンス 西尾 哲夫
- 8 「ポリネシア人のハラ」は物語る 片山 一道
- 9 ボクサーのハラ 榎永 真佐夫
- 10 研究フォーラム
「驚き」と「好奇心」を呼び覚ませ！
山中 由里子
- 12 みんなく Information
- 14 地球ミュージアム紀行
こどもとみんなくを結ぶもの
国立民族学博物館
五月女 賢司
- 15 みんなく 私の逸品
ダンダシュのベリーダンス衣装
ロータス
- 16 散策と思索の径
白頭山にのぼる
栗田 靖之
- 18 多文化をささえる人びと
共住懇の目指すもの、
それは大久保でコミュニティをどう作るかだ。
稲葉 佳子
- 20 歳時世相篇
バッタとの格闘
三島 禎子
- 22 フィールドで考える
草原にびびくクルアーン
藤本 透子
- 24 次号予告・編集後記